学校教育目標　自ら学ぶ子・やさしい子・元気な子

諏訪小だより

富士見市立諏訪小学校

令和７年２月１９日学校だより NO. １１
校長　　石井　勝博

がんばること

今年度も残すところ、約３０日。子供たちも１年間の復習をしっかり行っているところです。復習を行いながら、課題となっていることは何か、課題を明らかにしてしっかり身に付け新しい学年に進めたいと思います。例えば、２年生だったらかけ算九九をしっかり身に付けてほしいと思います。

さて、１月１０日に富士見市内の全教職員がキラリ☆ふじみの大ホールに集まって講演を聴く機会がありました。講演者はアテネオリンピック競泳日本代表 200m個人メドレー入賞の「森　隆弘　氏」で、「私を変えた恩師の言葉とその影響」という演題でお話をいただきました。お話の中で一番心に残ったことが、オリンピックにどうしたら出られるのかを恩師に尋ねたとき、恩師から「がんばりなさい」「努力しなさい」ではなく、「毎日何でもいいから１つ考えなさい」と言われたということです。だから、自分で何かを考え、実行した結果がオリンピック出場につながったということでした。

私はこのお話を聴き、担任をしていた頃、子供たちに話をしていた「がんばること」について思い出し、１月のお話集会でお話ししました。

今日は、「がんばること」についてお話をします。きっと諏訪小学校のみんなはいろいろなことにがんばっていると思います。でも、本当にがんばっているのでしょうか？考えたことはありますか。そもそも「がんばる」とは、どういうことなのでしょうか。分かりやすい例でお話をします。Ａさんが「漢字テストで 100 点をとるために家でたくさん勉強した。とてもがんばった。だから絶対 100 点とってやる」と言っています。でも、50 点でした。Ａさんはがんばったと言っているのでがんばったと思いますが、本当にがんばったのでしょうか。

※はじめに、５０点をとったＡさんに聞いてみました。

Ｔ（先生）：どのようにがんばったの？

Ｃ（児童）：テストに出る漢字を１行ずつノートいっぱいに書きました。ノートにいっぱい書くのにそれほど時間はかからなかったよ。

Ｔ：それはがんばったね。テレビを見ながらやっていませんでしたか

Ｃ：うん。少し、テレビ、見ちゃったかな。

※次に、がんばって 100 点をとったＢさんに聞いてみました。

Ｔ：Ｂさんは、どのようにがんばったの？

Ｃ：私は１つ１つの漢字をはねやはらいに気をつけて、とにかく覚えてやる～と思いながらやりました。

Ｔ：考えながらがんばりましたね。テレビは見ながらやっていましたか。

Ｃ：そんな暇ないよ。覚えることに一生懸命だったもん。

Ｔ：時間は、どのくらいかかりましたか？

Ｃ：30 分ぐらいかな。

Ａさんと Ｂさん、２人ともがんばったと言っていました。諏訪小のみなさんもがんばっていると思います。でも、自分が本当にがんばったのかどうかは、友達と比べてみることが必要なのかもしれませんね。自分で「がんばったがんばった」と言っているから、自分ではがんばったのかもしれませんが、お家の人や先生、友達にどのようにがんばったのかを伝えてみないと分からないことかもしれません。「がんばった」と言ったとき、大切なことは、どのくらいがんばったのかということと、どのようにがんばったのか、ということだと思います。例に挙げた２人ですが、２人ともがんばっていました。でも、がんばり方がＢさんの方がよかったのだと思います。「覚えてやる～」と考えながらやっていたこと、テレビなどを見ず集中してやっていたことがよかったのですね。みんながんばっていること、自分ががんばっていること、少し振り返って、自分は本当にがんばっているのか、どのくらいがんばっているのか、どうがんばっているのかを考えてみるといいですね。

よいがんばり方が分かると、もっともっと力がついていくと思います。